



パワー浜松ロータリークラブ週報 2015年1月20日号 本年度テーマ: Rotary Mind、Rotary Way を確認しよう～ 心で感じて・考えて・活動しよう～

パワー浜松ロータリークラブ (2014-15 年度会長: 小林昭次)
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松 4307 号室
Tel: 053-452-0800 Email: info@power-hamamatsurc.jp
http://www.power-hamamatsurc.jp
創立: 2002年10月22日 認証伝達式: 2003年4月29日 スポンサークラブ: 浜松中RC



第565回例会 1月20日 AM7:30～8:30

オークラクトシティホテル浜松3Fチェルシーの間

- 司会: 市川正良、廣瀬隼人 ●点鐘: 小林昭次
- ロータリーソング: それでこそロータリー
- ゲスト: 米山記念奨学生 暢婉君さん
- ビジター: 浜松東RC 松山太郎様、浜松RC 大田薫様
- 議事: 出席奨励委員会「男の着物・ワンポイントレッスン」

<出席報告>本日出席率62名 77, 50% 前々回出席率82, 50%



■会長挨拶

皆さんおはようございます。大田さん、松山さん、暢婉君さん、ゆっくりおくつろぎください。大田薫さん、合化労連(後の総評議長)の大田さんと同じ名前とよく言われますでしょ?松山さん、本当にお久しぶりです。また戻ってこられるのかな、と思いました。

1月9日に浜松中RCの創立例会に行きまして。その前に6日の我がクラブ新年会に浜松中RCの会長がお越しになりました。浜松中RCはもう何年になりますか?と聞いたところ「もう40年になる」というお話でしたので、40周年に呼ばれるんだな、と思って会場へ行きました。

最初に中野パストガバナーがご挨拶されて、37, 8年とおっしゃっているのが中野パストガバナーも随分お歳を召されたな、と思いました。その後浜松RC会長の挨拶もやはり37, 8年とおっしゃっているのが、となりにいた浜松南RCの会長に「今年で何年になるのですか?」と聞いたところ、37, 8年です、と。

40年は約40年という事でした。40周年という事でそれなりのスピーチを考えていたのですけれど、全てオジャンで全く違う事を話して終わりました。

皆さんも他のクラブに呼ばれる際にはですね、こうゆうことが無いように下調べをして臨んでもらいたいなと

思います。

今日は伊藤さんの卓話を皆さん楽しみにされてると思いますので、私の話はこのくらいにしたいと思います。今日一日よろしくお祈りします。

■幹事報告

本日のレターボックスへの配布物は、2月24日(火)静岡第7分区IMのご案内チラシと本日の卓話に関する資料です。

- ・先日の地区大会時の粗品、羽毛ブランケット8個ほど残っています。まだもらってない方は、取りに来てください。
- ・2月24日(火)第7分区IMの出欠は今週中、2月21日(土)未来夢プロジェクトの出欠は本日中午に返事を下さい。
- ・メンバーに必要な事項はメールで連絡されていますが、回答が必要な場合や重要なお知らせ等に関して、可能な限り速やかに返信頂けるよう徹底の程、宜しくお祈り致します。

■委員会報告

青少年育成委員会: 熊谷真一

昨日、マリーヌから年賀状が来ましたのでご紹介します。

「パワー浜松ロータリークラブの皆様、明けましておめでとうございます。私は昨年9月にパリで大学生になり、日本語を勉強しています。パリの大学は面白く、毎日とても楽しいです。去年は皆さんに大変お世話になりました。」

■スマイル

浜松RC 大田薫様:

おはようございます。この度2月3日午後6時51分頃から静岡朝日テレビ「とびっきり静岡」に、松川電気 小澤さんにご出演頂く予定です。皆さん是非ご覧ください。

金山土洲:

私のお弟子さんに身体がボロボロ病気のデパートと自分で言

っているご婦人がいます。50才くらいから通い始め今67才になります。「書をやっていたら生きるはずみがなく病に負けていました」と言っていました。この方が今月14日の新聞に発表されましたが、市の芸術祭書道部門で最高賞の大賞を授賞しました。土洲書院で7人目の大賞ですが、こんなおばちゃんが授賞し涙を流して喜んで頂けると本当に指導者冥利につきます。ちなみに市民展は明日21日～2月1日まで浜松市美術館です。

伊藤勝人：

今日は私の卓話の為に付き合います。和の文化も世界的に見直され大きな光があたり始めています。そして自分の体にあっている好きな仕事をする事はやはり楽しいです。出席委員会の皆さん、池田さん、今日は有難うございました。

■ 議事：卓話

「男の着物・ワンポイントレッスン」

株式会社 愛染倉 代表取締役 伊藤勝人会員



39年前、呉服業界にとっては下降線をたどっているまさに“逆風”の時に創業し、何故これまで頑張ってきたのか、「その秘訣を話して」との依頼を受けて本日の卓話となりました。高校の時、剣道をやっていました。将来は自衛隊が警察に入り、国を守る仕事に就きたいと思っていましたが、剣道が弱かったのと、顧問が“ブルドック”というあだ名の様に恐れられていた先生だったので、方向転換し、自分の身の丈に合った仕事で独立しようと思い、繊維の総合卸の会社に入社しました。紳士服部門に配属されると思っていたが、何故か呉服部門に配属されまして、呉服は“丁稚奉公”の世界だと思い、愕然としたのを今でも憶えています。実際担当地区に赴いてみると、前の会社を独立して“この道20～30年”の数多くの“先輩方”がひしめく『激戦地区』であり、「帰れ！ここは、お前みたいな者の来る所じゃない！」と言われた時、自分の中に火が付き、「将来必ずひっくり返して見返してやる！」と心に誓いました。その後もメゲずにその地区に通い続けていたある時、この業界では“老舗会社の叩き上げの会長”で、いつも何くれとなく目

をかけてくれていた“おじいちゃん”から、「よし！お前と付き合う」と言われた時、この世界で生きて行こうと思いました。それから3年後には、専門店の7割に納入できる様になり、以降全国の百貨店、ナショナルチェーンとも口座が開設出来、各店舗のバイヤーからは、「売れるものを持ってこい！」と言われるまでになり、順調に売り上げが伸びて行きました。

そんな折、社長から呼ばれて行ってみると、「野球のユニフォームのメーカーを別会社として興したいので、発案者と一緒にその立ち上げをやって欲しい」と言われました。

その後地方問屋開拓に奔走することになるのですが、文字通り、北海道から沖縄まで全国津々浦々まで行きました。北海道・旭川では、事前にアポイントを取って訪問しているにも拘わらず、門前払いを食らわされた上、凍結した道路で転倒したり、沖縄では“ウチナンチュー”（内地の人）と言われ不審な目で見られた事も数多くあり、大変苦労したのを今でも憶えています。3日間という予定で沖縄出張した折が有りまして、初日に早くも口座を獲得したこともありましたが、帰社後社長に「新規口座が開設出来ました！」と報告すると「よし！よくやった！」と言われ褒められた事は今でも良い思い出です。

その後、社長に独立の話をする事になるのですが、社長は心配しながらも最終的には認めてくれ、現在に至っています。28歳の時独立をし今年で38年、4月を越すと39年目になります。「道徳のない経済は犯罪であり、経済のない道徳は戯言である」との格言を胸に仕事に臨んでいます。



世界で“和”の文化、特に“着物”に対する注目度がアップしています。日本男児として和服を“粋に”着こなして頂こうと、本日は角帯の締め方や着物に関する“いわれ”等々を解説書を使用しながら説明していきます。きものTPO（紬はカジュアルであり、いわゆるジーンズである等々）、家紋や、赤ちゃんのお宮参りを“おくるみ”、その後七・五・三で“背縫い”をする等々の考えは、古来より親から子、子から孫（人から人）へと代々伝承されてきた日本の伝統文化であり、“邪気”から大切な家族や人を守ろうとする考えに由来するものです。